

今月の

用語

隣に伝えたい

新たな言葉と概念

言葉は時代によって変わります。それぞれの専門分野で日々新たな言葉が生まれている一方、逆に廃れてゆく言葉もあります。このようなめまぐるしい変化のなかで、専門分野が異なると隣で生じている用語や言葉のもつ意味合いの変化を正しく理解することは容易でなくなっています。

本コーナーでは、専門分野を異にする読者にそれぞれの専門分野における進歩や発展を用語の面から理解していただけるようにしたいという意図から、著者や編集委員に、「医療」に掲載されている論文の中からその都度用語を拾い出して解説することにしました。もちろん、より詳しくはそれぞれの学会の用語集などを参考にして頂く必要がありますが、本誌読者にはこのコーナーを通して時代の流れが見えてくるものと思います。

編集委員長 湯浅龍彦（国立精神・神経センター国府台病院）

【NST】

英 Nutrition Support Team 和 栄養サポートチーム 略 NST

〈解説〉 個々の患者さんや病気に対して適切な栄養管理を行うための病院内のチームのことである。1970年代に米国で誕生し、代謝・栄養学の専門家といわれる医師・薬剤師・栄養士らが患者サイドにたった専門的な栄養管理チームの必要性を唱えたのが始まりで、わが国においては、1998年に独自の兼業兼務システムとして誕生し、全国の医療施設で稼働している。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などが職種を越えてチームを作り、栄養管理を実践するところに大きな意義がある。

〈その他〉

関連学会：日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会、日本外科代謝栄養学会、日本看護協会、日本病院薬剤師会、日本栄養士会、日本臨床検査技師会

（川村美和子）

【ICF】

英 International Classification of Functioning, Disabilities and Health 和 国際生活機能分類
略 ICF

〈解説〉 国際生活機能分類（ICF）とは、2001年5月に改訂されたWHO（世界保健機関）による国際的な障害に関する分類法である。1980年以来、使用されていた国際障害分類 International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps (ICIDH)*を改訂したものである。

人間のあらゆる健康状態に関係した生活機能状態からその人をとりまく社会制度や社会資源までをアルファベットと数字を組み合わせた方式で分類し、記述・表現をしようとするものである。人間の生活機能と障害について「心身機能・身体構造」、「活動と参加」、それに影響を及ぼす「環境因子」について、合計約1500項目に分類している。

これまでのICIDHは心身機能による生活機能の障害を分類するという考え方が中心であったが、ICFの

大きな特徴は、活動や社会参加、特に「環境因子」という観点を加えることによって、研究のための科学的基盤の提供、さまざまな利用者間のコミュニケーションの改善、効果の評価などに役立てることを目指している。

例えば、同じレベルの機能障害があったとしても、段差のない道路や、駅のエレベーターなどが整備されているバリアフリーの環境で生活していれば、そうした整備が遅れている環境で生活することと比べて、格段に活動や参加のレベルが向上することとなる。ICFにおいては、環境因子の中に「e120 個人的な屋内外の移動と交通のための生産品と用具」などの項目が設定され、こうした環境を評価することができるように構成されている。

〈その他〉

専門分野・関連学会：リハビリテーション分野、精神分野、耳鼻咽喉科や眼科などの感覚機能・音声と発話の機能分野、心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能分野、代謝系機能分野、神経筋骨格と運動に関する機能分野、社会福祉分野、建築分野等、また、関連学会については日本リハビリテーション医学会、日本整形外科学会など多数。

*ICIDH

〔英〕 International Classification of Impairments, Disability and Handicaps

〔和〕 国際障害分類 〔略〕 ICIDH

〈解説〉 1970年代より検討が開始され、1980年に WHO において制定された機能障害と社会的不利に関する分類法である。この ICIDH のわが国における活用状況は、その使用目的が試行的かつ研究的な色彩を持つものであったために、実際に広く活用されてきたとは言い難い状態であった。2001年5月に WHO 総会で ICIDH の改訂版として International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) が採択され、今後は ICF に移行して行く形勢である。

〔文献〕 障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版，中央法規出版，2002

(中村伴子)

凡 例

〔英〕 当該用語の英語 〔和〕 同日本語 〔略〕 同英語の略語（よく使われているものがあれば）

〔同〕 同義語（日本語，英語） 類義語（日本語，英語） 〈解説〉 当該用語の解説（意味，概念，この用語の出現により廃れた言葉があればそのことにも触れる） 〈その他〉 その他必要事項（本用語と繋がり深い専門分野，関連学会など）